

効率的な情報共有かつ

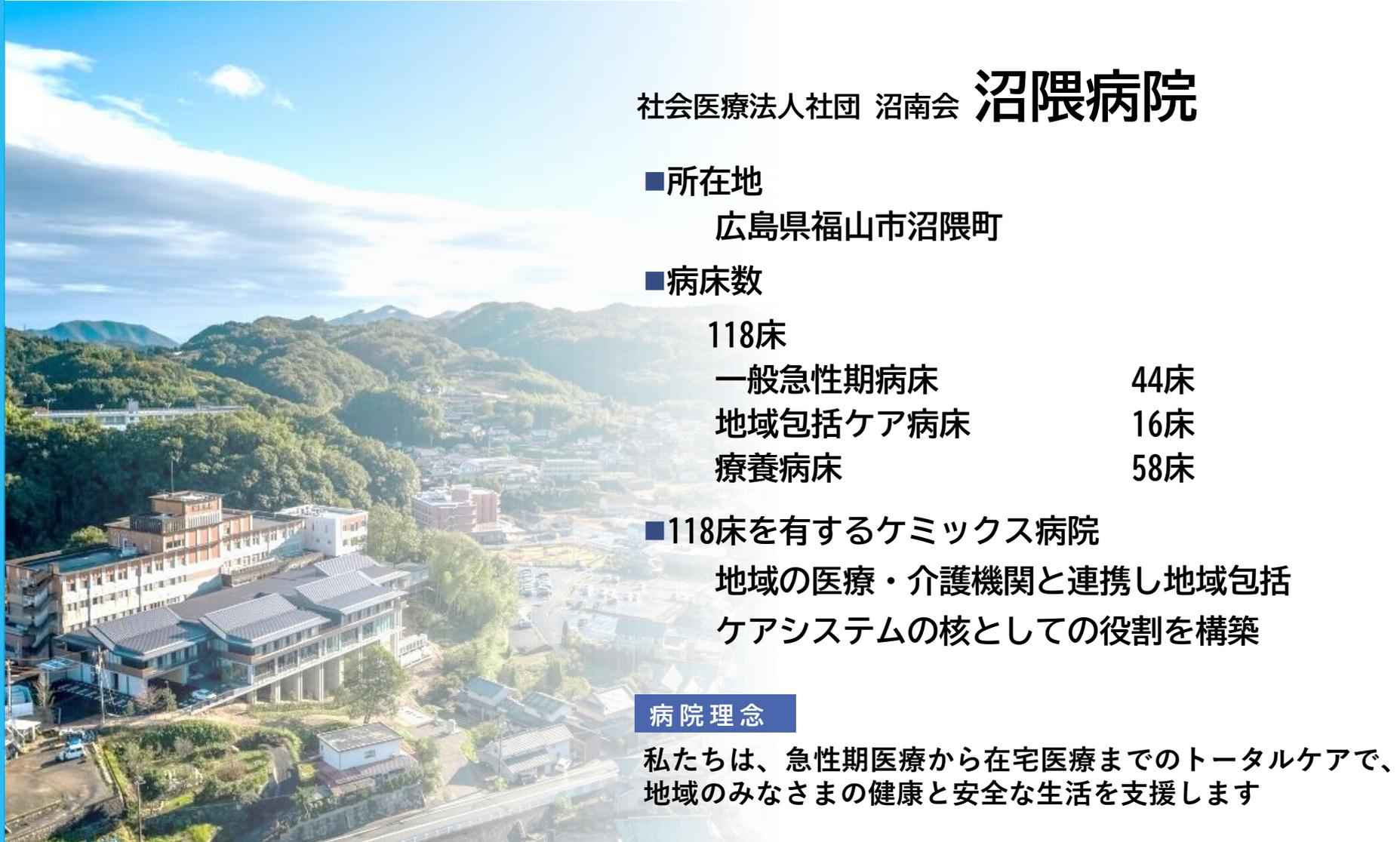
時間短縮を目指したベッドサイド申し送り



社会医療法人社団 沼南会 沼隈病院

久保田滋巳

概要



社会医療法人社団 沼南会 **沼隈病院**

■所在地

広島県福山市沼隈町

■病床数

118床

一般急性期病床 44床

地域包括ケア病床 16床

療養病床 58床

■118床を有するケミックス病院

地域の医療・介護機関と連携し地域包括
ケアシステムの核としての役割を構築

病院理念

私たちは、急性期医療から在宅医療までのトータルケアで、
地域のみなさまの健康と安全な生活を支援します

はじめに

療養病棟では、
看護師の超過勤務が常態化している現状があり、
そのことが離職の一因になっている

提案

申し送り時間を短縮することにより、
時間を有効活用できるのではないか

1

ベッドサイド申し送りを導入することにより
申し送り時間の短縮を図る

2

複数の看護師で患者を見ることで、正確な状況
把握や、情報を得る

3

申し送り内容を統一することで無駄をなくす

目的

効率的な申し送りと時間短縮を目指す

研究方法



期間

2023年10月1日～11月30日



対象

病棟看護師

夜勤者から日勤者への申し送り



看護体制

日勤看護師 6名

リーダー1名、受け持ち看護師5名

一人当たりの受け持ち人数は11～12名



調査方法

病棟を2チームに分け、1名のサブリーダーを選出

申し送りの際は、
バイタルサインチェックリストを使用

〈申し送りの内容〉

- ① 酸素投与量の確認
- ② 呼吸状態
- ③ 輸液のチェック
- ④ 医療機器の確認
- ⑤ 装具類の着用状況
- ⑥ ベッド周囲の環境
(主にポータブルトイレの配置状況)

ベッドサイド申し送り導入前後の時間を比較

スタッフにアンケートを実施

倫理的配慮

研究の目的等のほか、収集したデータは研究担当者以外には知らされず、研究目的以外には使用されないこと

結果

申し送り時間

—— 従来のナースステーション ——

平均31分

リーダー1名が全ての
申し送りの報告を受ける

—— ベッドサイド ——

平均26分

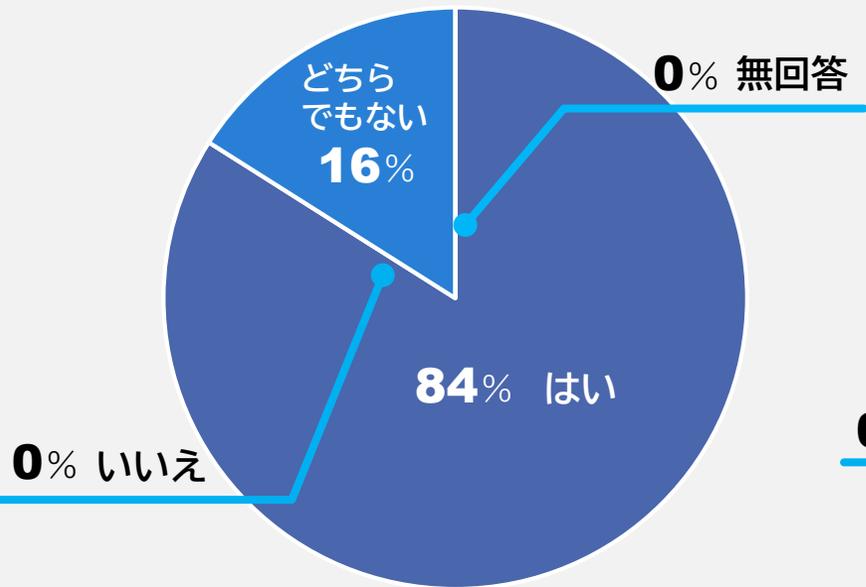
リーダーはサブリーダーから
重要事項のみ報告を受ける

平均5～6分程度の時間短縮

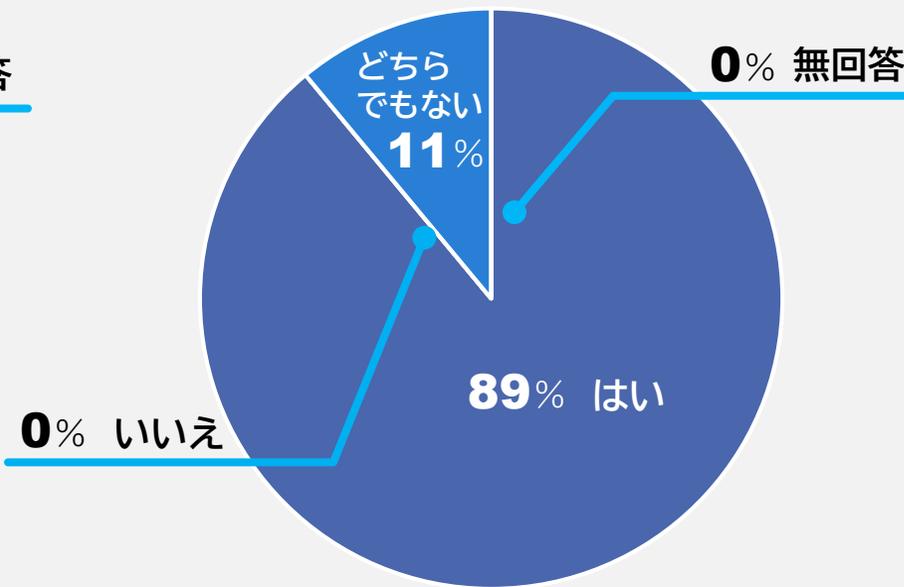
結果

アンケートの回収率90% (19/21名)

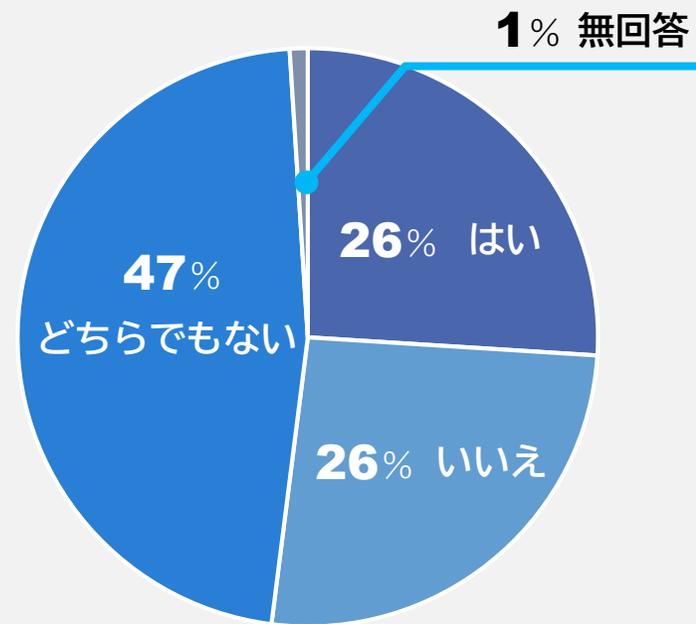
ベッドサイド申し送りを
開始してよかった



患者に合った生活環境の
話し合いができた



情報収集する時間は短縮されたか



自由回答

- ・患者や環境を見ながら申し送りを聞くことができるので理解しやすく、情報収集の短縮に繋がった
- ・皆で情報共有ができる
- ・一緒に考えることができるので心強い
- ・リスク回避ができると思うしディスカッションができる
- ・患者の気持ちを聞き取ることができた
- ・少し慣れてくると統一した申し送り内容ができていない
- ・発言に気を付けないといけない

考察

- 内容を統一し、変化がない情報は省略することで時間短縮に繋がった
- 内容を統一することによって大幅に時間短縮できると予想していたが、実際の結果は5～6分の短縮に留まった
- 申し送りを通して問題点を抽出し、皆で解決しようとする場になった
- 申し送りの場面では、患者を励ます言葉や不安の軽減を図る言葉により、患者と医療者の信頼関係の構築に繋がった
- 実際に患者を見ながら行うことで、看護師の認識の差を埋める事ができ、スキルや経験値に影響されにくく、正しい情報伝達に繋がった

おわりに

効果

患者から「いっぱい来てくれた」と喜びを言葉にする場面もあり、安心感に繋がった。また、複数人でアセスメントすることで患者の安全管理の面で有効だった。

ベッドサイド申し送りを導入して約3ヶ月 課題

- ▶ 申し送り時間が延長してきており、申し送り内容の統一を再確認が必要
- ▶ 個人情報の観点から患者のプライバシーへの配慮についての問題
- ▶ 超過勤務の常態化の改善

ご清聴ありがとうございました

